

シリアにおける クルド民族主義政党・政治組織（1）

青山弘之

はじめに

- I 活動概史
 - II 政党・政治組織(50音順)(以上, 本号)
 - III 政治同盟(50音順)(以下, 次号)
- 結びにかえて
索引(人名, 組織名)

はじめに

シリア・アラブ共和国には現在40以上の政党・政治組織が存在する。それらは、(1)アラブ民族主義(バアス主義, ナセル主義), (2)マルクス主義, (3)シリア民族主義(大シリア主義), (4)イスラーム主義, (5)クルド民族主義, (6)その他(リベラリズム, アッシリア民族主義など), という異なったイデオロギー・思想^(注1)をよりどころとする六つの政治勢力に分類できる(表参照)。

このうち、権威主義・独裁体制下にある今日のシリアにおいて、合法的に政治活動を行なえるのは、憲法第8条によって「国家と社会を指導する党」としての地位を保障されているアラブ社会主義バアス党(Hizb al-Ba'th al-'Arabī al-Ishtirākī)と、同党を中心とする翼賛的な政治同盟, 進歩国民戦線(al-Jabha al-Waṭaniya al-Taqaḍdumiya)に加盟する8党派(表のa 参照)だけで、それらはいずれもアラブ民族主義勢力が

マルクス主義勢力に属している。

それ以外の政党・政治組織は、政治結社としての登録を行なうための法的規定(例えば政党法)がない現体制において、“非合法”, “違法”とは断定し得ないまでも^(注2)、“非公認”, “未公認”の団体とみなされている。すなわち、これらの組織は、反政府的な言動を厳しく規制されているものの、親政府の立場をとる限りにおいて、あるいは政権に脅威を及ぼさない限りにおいて、その存在を黙認されてきたのである。

こうしたアンビバレントな地位を逆手にとるかのようになり、バッシュール・アサド(Bashshār al-Asad)政権の発足(2000年7月17日)以降、さまざまな政治組織が公然と活動を行なうようになってきた。そのなかで近年その動静がもっとも注目されているのがクルド民族主義勢力である。彼らは1960年代半ば頃まで、トルコ、イラン、イラク、シリアなどで暮らすクルド民族の独立国家建設と、クルディスタン(Kurdistan, 「クルド人のくに」の意味)の統一を究極目標に掲げてきた。だがその後、より現実的な路線を志向するようになり、シリアの全人口の8%から11%を占めるといわれるクルド人の政治的・文化的な自治の獲得や、民主主義の確立をめざすようになってきた。

以下では、まず第I節でシリアのクルド民族

シリアにおける主な政党・政治組織

① アラブ民族主義

バアス主義

アラブ社会主義バアス党^a

アラブ社会主義バアス党民族指導部 (al-Qiyāda al-Qawmiya) 派 (ミシェル・アフラク (Mishil 'Aflaq) 派)^{b, g}

アラブ社会民主主義バアス党 (Hizb al-Ba'th al-'Arabī al-Ishtirākī al-Dīmuqrāṭī)^{b, g}

アラブ社会主義者運動 (Haraka al-Ishtirākīyin al-'Arab) アフマド・ムハンマド・アフマド (Aḥmad Muḥammad al-Aḥmad) 派^a

アラブ社会主義者運動アブドゥルガニー・アイヤーシュ ('Abd al-Ghani 'Ayyāsh) 派^{b, g}

国民誓約党 (Hizb al-'Ahd al-Waṭāni , 旧アラブ社会主義者運動ガッサーン・アブドゥルアズィーズ・ウスマーン (Ghassān 'Abd al-'Aziz 'Uthmān) 派)^a

統一社会主義者党 (Hizb al-Waḥdawīyin al-Ishtirākīyin)^a

統一社会民主主義党 (al-Hizb al-Waḥdawī al-Ishtirākī al-Dīmuqrāṭī)^a

ナセル主義

アラブ社会主義連合党 (Hizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī)^a

アラブ民主連合党 (Hizb al-Ittiḥād al-'Arabī al-Dīmuqrāṭī)^a

アラブ社会主義連合民主党 (Hizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī al-Dīmuqrāṭī)^{b, g}

アラブ社会主義連合統一党 (Hizb al-Ittiḥād al-Ishtirākī al-'Arabī al-Muwaḥḥad)

統一と民主主義のための連合 (al-'Tajammu' min ajl al-Waḥda wa al-Dīmuqrāṭīya)

② マルクス主義

シリア共産党ウィサール・ファルハ (Wiṣāl Farḥa) 派^a

シリア共産党ユースフ・ファイサル (Yūsuf Fayṣal) 派^a

シリア共産党『カーシユーン』グループ (Majmū'a Qāsiyūn , シリア共産主義者統一国民委員会 (al-Lajna al-Waṭāniya li-Waḥda al-Shuyū'iyyin al-Sūriyyin))

シリア民主社会党 (al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Ijtīmā'ī al-Sūri , 旧シリア共産党政治局 (al-Maktab al-Siyāsī) 派)^{b, g}

アラブ革命労働者党 (Hizb al-'Ummāl al-Thawri al-'Arabī)^{b, g}

共産主義行動党^g

③ シリア民族主義

シリア民族社会党 (al-Hizb al-Sūri al-Qawmī al-Ijtīmā'ī) イサム・マハーイリー ('Iṣām al-Maḥāyirī) 派^a

シリア民族社会党民主的潮流 (al-Tayyār al-Dīmuqrāṭī) 派 (バースィール・ダフドゥーフ (Bāsīl Dahḍūh) 派)

シリア民族社会党インティファダ派 (Janāh al-Intifāda) (アントゥーン・アビー・ハイダル (Antūn Abī Haydar) 派)

④ イスラーム主義

シリア・ムスリム同胞団

イスラーム解放党 (Hizb al-Tahrīr al-Islāmī)

⑤ クルド民族主義

シリア・クルド民主党 (アル・パルティー) ナスルッディーン・イブラーヒーム派^{c, e, g}

シリア・クルド民主党 (アル・パルティー) ムハンマド・ナズィール・ムスタファー派^{d, e, g}

シリア・クルド左派党ハイルッディーン・ムラド派^{c, e, g}

シリア・クルド左派党ハイルッディーン・イブラーヒーム派^{d, e, g}

クルド・シリア民主党^e

シリア・クルド進歩民主党アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派^{c, e, g}

シリア・クルド進歩民主党アズィーズ・ダーウド派^{d, e, g}

シリア・クルド人民連合党^{e, g}

シリア・クルド民主統一党 (イェキーティ)^{c, e, g}

シリア・クルド・イェキーティ党^{e, f, g}

シリア・クルド国民民主党^{d, e, g}

シリア・クルディスターン民主パルティー^f

シリア民主連合党^e

クルド・シリア民主合意

⑥ その他

シリア・アッシリア運動 (al-Haraka al-Āshūriya al-Sūriya , アッシリア民主機構 (al-Munazzama al-Āthūriya al-Dīmuqrāṭīya))^f

シリア改革党 (Hizb al-Iṣlāh al-Sūri)

シリア近代民主主義党 (Hizb al-Ḥadātha wa al-Dīmuqrāṭīya li-Sūriya)^f

文化会議・人権擁護団体

アラブ人権機構 (al-Munazzama al-'Arabiya li-Huqūq al-Insān) シリア支部 (Far' Sūriya)^g

国籍剥奪者権利擁護委員会^g

ジェラーデト・ベドゥルハーン文化会議

市民社会再生諸委員会^g

ジャマール・アタースイー民主的対話会議^g

シリア人権委員会 (al-Lajna al-Sūriya li-Huqūq al-Insān)

シリア人権協会^g

シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会^g

(注) a は進歩国民戦線加盟派を, b は国民民主連合加盟派を, c はシリア・クルド民主同盟加盟派を, d はシリア・クルド民主戦線加盟派を, e はシリアにおけるすべてのクルド政党の名で発表される声明に署名した政党・政治組織を, f はシリア民主同盟加盟派を, そして, g は基本的自由・人権擁護国民調整委員会加盟組織を指す。

(出所) 青山[2003]などをもとに筆者作成。

主義勢力の活動史を概観する。次に第Ⅱ節でこれまで同国で結成された主なクルド民族主義政党・政治組織を、第Ⅲ節でこれらの組織が発足したないしは参加した政治同盟を紹介する。そして「結びにかえて」において、今日活動している14のクルド民族主義政党・政治組織の類型化を行なう。

I 活動概史

1. クルド民族主義勢力の台頭と挫折

シリアのクルド民族主義勢力はフランス委任統治(1920～46年)のもとで興隆した。この当時、宗主国フランスは、シリアで暮らすさまざまな民族・エスニック集団や宗教・宗派集団の間の社会的亀裂を強調し、その分断を図ることで支配を維持しようとした。こうしたいわゆる「宗派主義」(tā'ifiya)的政策がホーイブーン*(*)は第Ⅱ,Ⅲ節の対象項目において解説を行なった政党・政治組織,政治同盟。以下同じ)などの活動を後押ししたのである。

独立(1946年4月17日)当初、クルド人の多くとりわけ有識者や政治活動家は、クルド民族主義に傾倒せず、シリアという国家枠組みのなかで政治に参加しようとするか、マルクス主義に依拠して民族・宗教の超克をめざそうとした。だが1940年代末から50年代初めにかけて、クルド系の軍高官(注3)の4度にわたるクーデタと政治干渉により、「クルド独裁政権」への批判と反クルド感情が高まり、また50年代半ば以降、エジプト7月革命(1952年)に共鳴するかたちでアラブ民族主義が高揚したことで、クルド人に対する差別が激しさを増していった。そして62年のハサカ県での「例外的統計」(al-

ihṣā' al-istithnā'i)注4)によって12万名に及ぶクルド人が国籍を剥奪される一方で、60年代半ばに策定された「アラブ・ベルト」(al-ḥuzām al-'arabi)構想(注5)に従って、クルド人農民の土地没収・追放やクルド語の使用規制が断行されることで、クルド人に対する差別・抑圧が“制度化”,ここに「クルド問題」(al-mas'ala/al-qaḍiya al-kurdiya)が発生したのである[青山未刊行]

クルド民族主義勢力はこうしたクルド問題の発生・深刻化という事態を受けるかたちで活性化し、1957年のシリア・クルディスタン民主党(現在のシリア・クルド民主党 アル・パルティー*)発足をもって政治活動を本格化させた。しかし63年3月8日の「バース革命」によってバース党以外のほとんどすべての政党・政治組織が政治の場から排除され、70年11月13日に全権を掌握したハーフィズ・アサド(Hāfiz al-Asad)前大統領のもとで強固な権威主義体制が確立すると、その活動は困難を極めた。戒厳令のもと、クルド民族主義勢力は「宗派主義的・教条主義的ショーヴィニズム」を喚起し、「シリアの国土の分割と外国への割譲」をめざす「秘密結社」とみなされ、容赦ない弾圧に曝されたのである。

このような抑圧状態はクルド民族主義勢力の結束強化や活動規模拡大につながることはなく、以下のような争点をめぐる指導者・活動家間の対立を助長していった。

- (1)クルド民族主義の目標をめぐる対立：クルディスタンの解放・独立・統一をめざすのか、クルド人をマイノリティとみなし、彼らが暮らす国々(トルコ,イラク,イラン,シリアなど)での政治的・文化的自治をめざすのか。

- (2)クルド民族主義の担い手・指導者をめぐる対立：大地主や宗教指導者といったいわゆる“搾取階級”の指導を認めるのか、労働者・農民を運動の主体とするのか。
- (3)政権との関係をめぐる対立：権威主義・独裁を本質とする政権との対話・交渉を通じて政治に参加し、漸進的な改革をめざすのか、非妥協的な抵抗運動を通じて、政権の打倒・交代をめざすのか。
- (4)隣国のクルド民族主義政党・政治組織との関係をめぐる対立：イラクのクルディスタン民主党(al-Hizb al-Dimuqrātī al-Kurdistānī, 英語名Kurdistan Democratic Party, 略称KDP)やクルディスタン愛国連盟(al-Ittihad al-Waṭānī al-Kurdistānī, 英語名Patriotic Union of Kurdistan, 略称PUK),トルコのクルディスタン労働者党(Partiya Karkeren Kurdistan, 略称PKK)との協力関係を通じて勢力拡大をめざすのか、こうした協力関係をこれらの政党への従属とみなすのか。
- (5)指導者どうしの主導権争い。

こうしたイデオロギー対立や路線対立の結果、シリアのクルド民族主義勢力は分裂を繰り返し(図参照), 政権に対する抵抗力を相対的に低下させていった。

2. バッシャル・アサド政権の対クルド政策
 ハーフイズ・アサド前大統領の死去(2000年6月10日)とバッシャル・アサド政権の発足とともに、クルド民族主義勢力をめぐる政治状況は改善されるかに思えた。改革志向を前面に押し出すバッシャル・アサド政権は、政治・経済・社会といった分野において変化の必要性を強調するなかで、クルド問題の解決についても

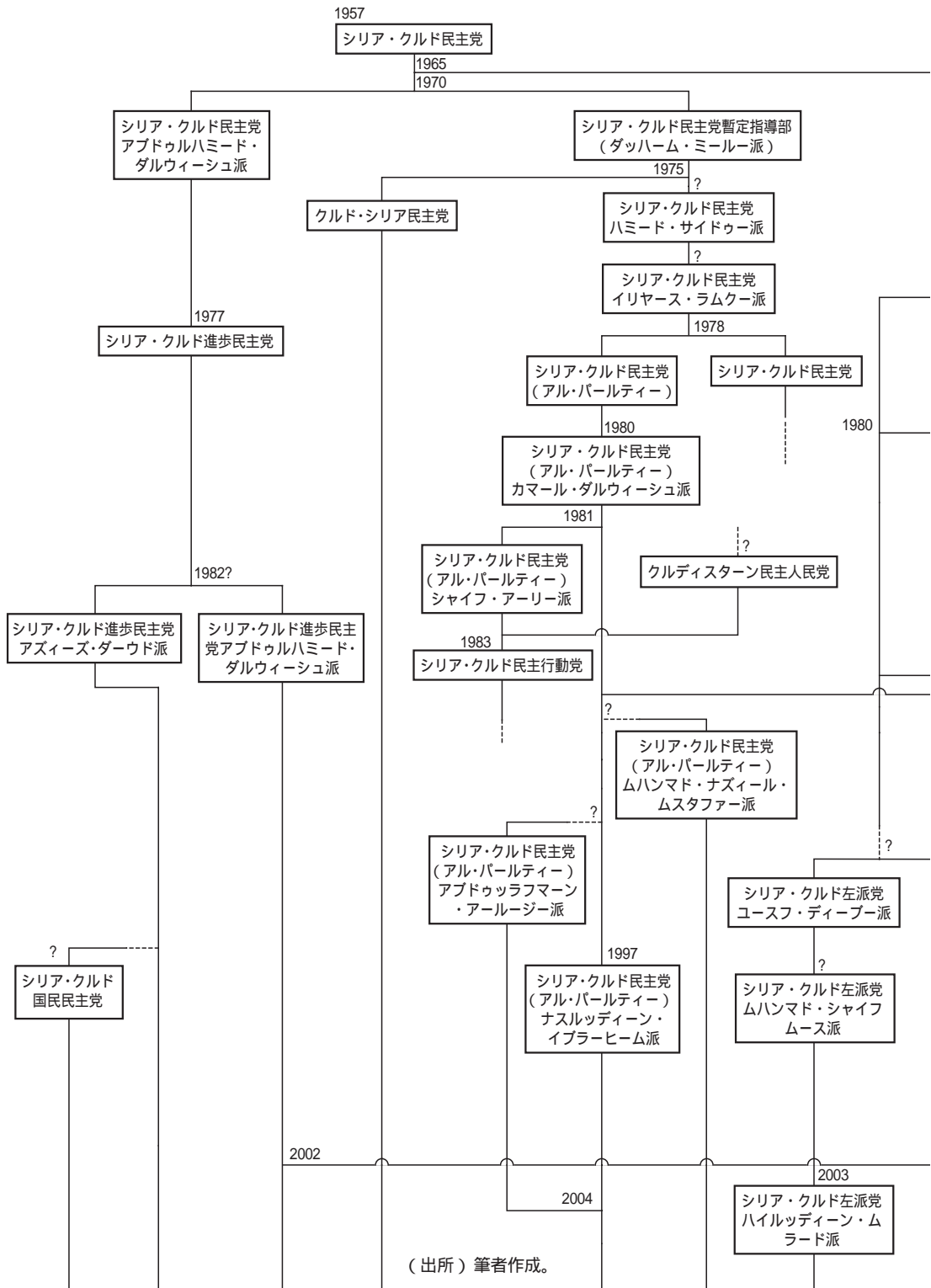
前向きな姿勢を示したからである。

例えば2002年8月18日、バッシャル・アサド大統領は、シリアの国家元首としては実に44年ぶりにハサカ県を公式訪問し、地元の有力者を前にして次のように述べた。

「ここ[ハサカ県][]内は引用者。以下同じ)には早急に解決し得る多くの問題がある。提起されているにもかかわらず、検討されていない多くの問題がある。[これらの問題は]直ちに検討されるだろう。そして検討の準備が整えば[問題への対応は]実行段階に移されるだろう……。クルド人は我々の兄弟であり、我々は彼らを他のシリア国民と等しく見ている。我々と彼らの文明は一つである」[*Şawt al-Akrād* 2002]

しかしこうした発言はクルド民族主義勢力に対する寛容を意味するものではなかった。バッシャル・アサド政権は「ダマスカスの春」(rabi' dimashq)^{注6}と称された改革運動を主導した有識者に対するのとまったく同じように、クルド民族主義政党の指導者・活動家に、(1)権威主義・独裁を本質とする現政権の存在を否定するような改革を主唱しない、(2)政権が主導する改革プログラムを先取りするような言動を控える、という二つの前提条件[青山 2005]を課すことで、その無力化を図っていった。そしてこの前提条件に抵触するような言動に対しては容赦ない弾圧(逮捕・投獄)を加えていった。

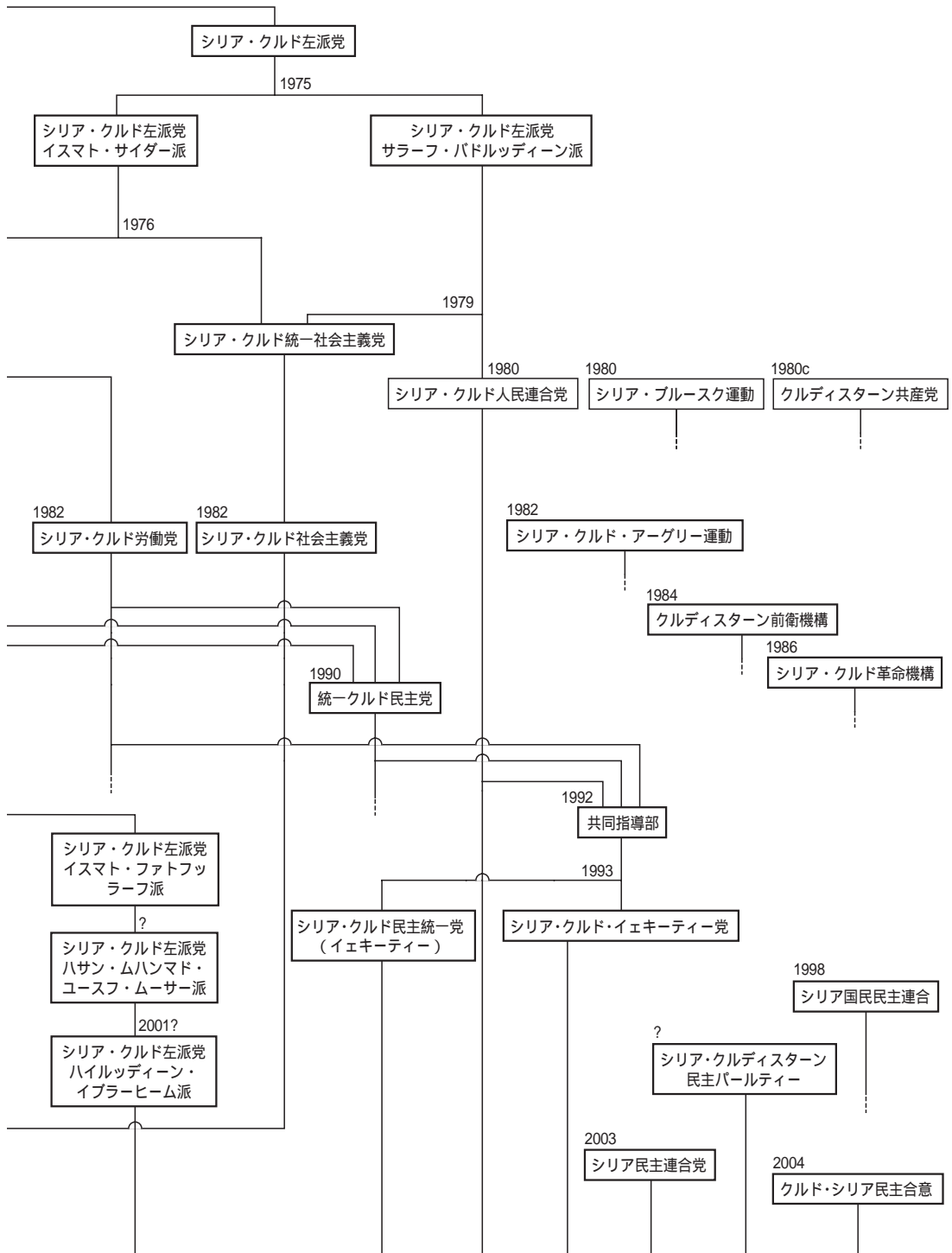
バッシャル・アサド政権による封じ込め策は、2004年3月に発生したいわゆる「カーミシュリー事件」^{注7}でも講じられた。同政権は一方で、クルド民族主義政党の指導者と会見し、事態の正常化に向けた協力を要請するとともに、5月1日には大統領自身がアル＝ジャズィ



政党・政治組織の分裂

1927-1928

ホーイブーン



ーラ・テレビ(al-Jazīra TV)のインタビュー番組で次のように述べ、クルド人の権利向上を約束した。

「[クルド問題の]解決を遅らせている唯一の要因はさまざまな政治的懸案の存在である。しかし[解決に向けた]基礎は築かれており、この基礎に関する議論もなされた。この問題は最終段階に達している……。彼ら[クルド人]は我々とともに暮らすシリア国民であり、クルド民族主義はシリアにおける調和と歴史の一部をなしており、[シリアに]完全に融合している」[Aljazeera.net 2004]

だがこうした姿勢が具体化することはなく、2004年5月末、バアス党シリア地域指導部(al-Qiyāda al-Qutriya)はクルド民族主義政党の政治活動を禁止し(注8)、クルド人の政治的・社会的・経済的状況がバッシャール・アサド大統領のイニシアチブによってのみ改善され得ることを改めて誇示したのである。

現在シリアでは、表の⑤に列記した14のクルド民族主義政党・政治組織　そして表のc、dで示した二つの政治同盟　が活動している。これらの組織は、合従連衡や対立を繰り返しつつ、バッシャール・アサド政権の硬軟織り交ぜた封じ込め策に対処せねばならない、という困難な立場に置かれている。

II 政党・政治組織(50音順)

1. クルディスタン共産党

アラビア語名:

al-Ḥizb al-Shuyū'ī al-Kurdistāni

シリアに活動拠点を移したPKKに共鳴する活

動家が1980年代初めに結成した組織。クルディスタンの独立と統一をめざし、トルコ、イラン、イラクの「植民主義的」政権によるクルド人の抑圧を強く非難した。だがハーフィズ・アサド前政権に対しては批判の語気を弱める傾向があった。現在は活動していない[Nimr 1995]

2. クルディスタン前衛機構

アラビア語名:

Munazzama al-Ṭalī'a al-Kurdistāni

1984年1月に発足した組織。イデオロギー対立や分裂を繰り返す既存のクルド民族主義政党にシリアの体制を変革する能力はないと断じ、社会主義革命によるクルディスタンの解放と統一、社会主義的統一国家の樹立をめざした。現在は活動していない[Nimr 1995]

3. クルディスタン民主人民党

アラビア語名:

Ḥizb al-Sha'b al-Dīmuqrāṭī al-Kurdistāni

サーミー・アブドゥッラフマーン(Sāmi 'Abd al-Raḥmān)を書記長とする政党。発足時期は不明。1983年のシリア・クルド民主行動党*結成に参加した[Ramaḍān n.d.]

4. クルド・シリア民主合意

アラビア語名:

al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī

コングラ・ゲル(Kongra-gel, トルコ語名 Kurdistan Halk Kongresi [クルディスタン人民会議]), 2002年4月にクルディスタン自由民主主義会議(Kongreya Azadî û Demokrasiya Kurdistanê (KADEK))に名称を変更したPKKが2003年末に再

度改称して発足)を「政治的・思想的」理由により離反した一派が2004年12月にイラク北部で結成。「シリア・クルディスタン」(kurdistān sūriyā)で暮らすクルド人民の希望をかなえるための「民主的・平和的な自然権」の行使を主張し、民主的文明、平和、自由、平等、社会的公正の実現をめざす。

結成に際して、クルド・シリア民主合意は自らが他のクルド民族主義政党にとって代わる存在ではなく、それらを支援する組織である点を強調し、これらの政党に「隊列の統一と、民主的、平和的、公正な闘争への参加」を呼びかけた。またシリア国内に活動拠点を持たないことで予想される批判を回避すべく、近隣諸国から資金援助を受けていないことを力説した[al-Wifaq al-Dimuqrātī al-Kurdī al-Sūri Munassiqiya 2004]

5. クルド・シリア民主党

アラビア語名:

al-Hizb al-Dimuqrātī al-Kurdī al-Sūri

クルド語名:

Partiya Demokrat a Kurd a Sūri (PDKS)

1975年、ムハンマド・バーキー・シャイフ・ムハンマド・イーサー(Muhammad Bāqī Shaykh Muḥammad 'Īsā)を中心とする「ムッラー」(al-malālī)勢力がシリア・クルド民主党*ダッハーム・ミールー(Dahhām Mirū)派を離反し結成した政党。この離反はダッハーム・ミールー派内の「地主」(al-mallākūn al-'aqrūn)勢力によるザカートやサダカの減額に「ムッラー」勢力が不満を抱いたことを原因としていた。初代書記長はムハンマド・バーキー・シャイフ・ムハンマド・イーサー。現在はジャマール・ムハンマ

ド・バーキー(Jamāl Muḥammad Bāqī)が書記長を務める。機関紙『デンゲ・クルド』(*Dengê Kurd*)を刊行[Ibrāhīm 2003; Nimr 1995]

1991年にシリア・クルド民主同盟*の結成に参加したクルド・シリア民主党は、長らくこの同盟の枠内で活動を行ってきた。だが同盟が参加した2003年12月10日の首相府前でのデモ^{注9)}で、クルド問題の解決が第一義に掲げられず、クルド民族主義的色彩を抑えられたことを不服とし、同月14日、「[シリア・クルド民主]同盟のプログラム、決定、政策、闘争活動に深刻な不調和が生じた」[al-Hizb al-Dimuqrātī al-Kurdī al-Sūri 2003]との声明を発表し、同盟を脱退した。

6. シリア・クルディスタン民主パルティー アラビア語名:

Bārti Dimuqrātī Kurdistan Sūriyā, al-Hizb al-Dimuqrātī al-Kurdistānī fī Sūriyā, al-Hizb al-Dimuqrātī al-Kurdistānī Sūriyā

クルド語名:

Partiya Democrat a Kurdistanê Sūriyê (PDK-S)

タウフィーク・ハムドゥーシュ(Tawfīq Ḥamdūsh)、フサイン・サアドゥー(Husayn Sa'dū)、ジャーン・クルド(Jān Kūrud)らを中心とする政党。発足時期は不明。「パルティー」(partī)はクルド語で「党」を意味する。「民主主義、人権、政治的自由」の原則に基づく「未来のシリア」像の実現をめざす。2003年半ば、民主的シリアのための同盟*の設立を呼びかけることで活動を本格化させ、同年11月、シリア民主同盟*の結成に参加した。現在活動している14のクルド民族主義政党のなかでは、クルド・

シリア民主合意*とともにシリア国内に活動拠点を持たない[*Akhbār al-Sharq* 2003 ; Bārti Dîmuqrātî Kurdîstānî Sûriyā 2003]

7. シリア・クルド・アーグリー運動

アラビア語名: *Ḥaraka Agrî Kurd fî Sûriyā*

1982年にマフムード・シャウズイー(*Maḥmūd Shawzî*), ズィヤード・ダイラキー(*Ziyād Dayrakî*)らが結成した組織。「アーグリー」(*Agrî*)はクルド語で「アララト山」を意味する。機関紙『クルディスタン』(*Kurdîstān*)を刊行し、クルディスタンの統一と解放, トルコ人, アラブ人, ペルシャ人, ロシア人への報復を訴えた。現在は活動していない[*Nimr* 1995]

8. シリア・クルド・イエキーティー党

アラビア語名: *Ḥizb Yekitî al-Kurdî fî Sûriyā*

クルド語名: *Partiya Yekitî ya Kurd li Sûriyê*

シリア・クルド人民連合党*を離反したフアード・アリークー(*Fu'ād 'Alîkû*), ハサン・サーリフ(*Hasan Şālih*)らが, シリア・クルド労働党*と統一クルド民主党*の元党員とともに1992年(注10)に結成した「共同指導部」(*Komîta Hevbeş*)を母体とするシリア最大のクルド民族主義政党。92年から93年にかけて党としての組織を確立した[*Nāmî* 2003 ; *Qamislo.com* 2004 ; *Şêxo* 2003]。「イエキーティー」(*yekitî*)はクルド語で「統一, 統合」を意味する。

中央委員会(*al-Lajna al-Markazîya*)書記長(党首に相当)は現在, アブドゥルバーキー・アル＝ユースフ(*'Abd al-Bāqî al-Yūsuf* , ユースフに定冠詞「アル＝」がつく)が務める。また政治委員会(*al-Lajna al-Siyāsîya* , 政治局に相当)には, アブドゥルバーキー・ユースフ(*'Abd al-Bāqî Yūsuf* , ユースフに定冠詞「アル＝」がつかない)委員長の他,

フアード・アリークー, ハサン・サーリフ, マルワーン・ウスマーン(*Marwān 'Uthmān*), マフムード・アムウ(*Maḥmūd 'Amw*)らが名を連ねる。このうちフアード・アリークーは, シリア・クルド人民連合党員時代の1990年5月に実施された第5期人民議会選挙(注11)でハサカ県選挙区から無所属で出馬し, 当選した経歴を持つ。

機関紙『イエキーティー』(*Yekitî*)を刊行するとともに, 欧州機構(*Tanzîm Ūrubā*)がホームページ <http://home.c2i.net/yekiti/> と <http://www.yekiti.org/> を, ドイツ機構(*Munazzama Almaniya*)が <http://www.yekiti.de/> を, オランダ機構(*Munazzama Hūlandā*)が <http://www.yekiti.tk/> を, スイス機構(*Munazzama Suwaysrā*)が <http://www.yekiti.ch/> を開設している。

スローガンは「シリアのクルド人民に対する抑圧の撤廃, 民主的諸自由と人権の尊重,

シリアにおけるクルド人民の民族的諸権利 [の保障] と憲法への明記, のための闘争」。シリア北東部を「シリアに割譲されたクルディスタンの一部」とみなしているが, クルディスタンの統一・独立を主唱せず, クルド民族の存在を承認する条項のシリア憲法への追加, アル＝ジャズィーラ(*al-Jazîra* , チグリス・ユーフラテス両川に挟まれたシリア領内の地域の通称。アラビア語で「島」を意味する)地方におけるクルド語の公用語化, 同地方における地方自治へのクルド人の参与, 自由の確立, 戒厳令の解除, 政治犯の釈放, 政党法の制定などを具体的目標に掲げる[*Kurdish Yekiti Party in Syria* 1999]

バッシャール・アサド政権発足直後, 国内の有識者が各地で文化会議(*muntadā thaqāfiya*)を立ち上げ, 改革運動を開始すると, シリア・クル

ド・イエキーティー党はこの動きに呼応し、2000年12月10日、マルワーン・ウスマーンがムハンマド・アミン・ムハンマド(Muhammad Amin Muhammad, 作家・技師)とともにカーミシュリー市でジェラード・ベドウルハーン文化会議(Muntadā Celadet Bedirxan al-Thaqāfī)を設立した。

2001年夏に「ダマスカスの春」の指導者10名が逮捕され、文化会議が当局の規制対象となると、シリア・クルド・イエキーティー党はより直接的な方法で反政府的なスタンスを誇示するようになった。2002年12月10日、世界人権の日に合わせ、マルワーン・ウスマーンとハサン・サーリフが人民議会議事堂前でデモを組織し、憲法によるクルド人民の民族的アイデンティティの承認、クルド語・クルド文化への規制の解除、国籍剥奪者の権利回復、「アラブ・ベルト」構想に代表される人種差別政策の廃止などを要求した。しかし両名は同月15日に逮捕され、2004年2月22日、国家最高治安裁判所で禁固14カ月を宣告された[*Akhbār al-Sharq* 2004a; Hizb Yakīti al-Kurdi fī Sūriyā al-Lajna al-Siyāsiya 2002a; 2002b; Yūsuf 2002]^{注12}。

2003年以降、シリア・クルド・イエキーティー党は他のクルド民族主義政党と共同歩調をとるようになり、同年6月25日のダマスカス市のユニセフ事務所前でのデモ^(注13)、10月5日の首相府前でのデモ^(注14)、12月10日の首相府前でのデモ(注9参照)、そして2004年8月30日のダマスカス市の国家最高治安裁判所前でのデモ^(注15)に参加した。

一方、第8期人民議会選挙(2003年3月2～3日投票)では、2003年2月17日、他のクルド民族主義政党とともにシリアにおけるすべてのク

ルド政党*の名で共同声明を発表し、ハサカ県選挙区で統一候補を擁立する合意に達したことを明らかにした。だが2月23日、同選挙区においてクルド人が人口比に応じた議席を割り当てられなかったと主張し、立候補と投票のボイコットを宣言した[*Hizb Yakīti al-Kurdi fī Sūriyā* 2003b]。同様のボイコット宣言は2003年6月の統一地方選挙でも行なわれた[*Hizb Yakīti al-Kurdi fī Sūriyā al-Lajna al-Markaziya* 2003]。

2004年3月にカーミシュリー事件が発生すると、フアード・アリークーが他のクルド民族主義政党の幹部とともにアリー・ハンムード('Alī Hammūd)内務大臣(当時)ら政府・バアス党高官と数度にわたって会見し、事件の真相究明などを要求した^(注16)。

以上のような反政府的な活動ゆえに、シリア・クルド・イエキーティー党はしばしば当局の弾圧を受けており、2002年末にマルワーン・ウスマーンとハサン・サーリフが逮捕された他にも、カーミシュリー事件直後の2004年3月29日、ラアス・アル＝アイン市でマフムード・アムウが逮捕された[*Hizb Yakīti al-Kurdi fī Sūriyā al-Lajna al-Siyāsiya* 2004]。

シリア・クルド・イエキーティー党は、シリア・クルド民主同盟*やシリア・クルド民主戦線*といった政治同盟に加盟せず、単独で活動を行なうことが多かった。だが2003年6月、シリア・クルディスターン民主パルティー*が民主的シリアのための同盟*の結成を呼びかけると、参加に前向きな姿勢を示した。この同盟への正式な参加は、党内の事情を理由に見送られたものの、同年11月、民主的シリアのための同盟が発展解消するかたちで発足したシリア民主同盟*には参加した。また2005年1月には、

シリアの主要な反政府組織とともに基本的自由・人権擁護国民調整委員会*を結成した。

9. シリア・クルド革命機構

アラビア語名:

al-Tanzīm al-Thawrī al-Kurdī fī Sūriyā

1986年にクルド人青年(学生,労働者など)が発足した組織。クルド民族主義政党の分裂・乱立を憂慮して発足したこの組織は、クルディスタンへの帰属とマルクス・レーニン主義を重視し、武装闘争を通じたクルディスタンの解放をめざした。現在は活動していない[Nimir 1995]

10. シリア・クルド国民民主党

アラビア語名:

al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Waṭanī al-Kurdī fī Sūriyā

シリア・クルド進歩民主党*アズィーズ・ダーウド(‘Azīz Dāwūd)派を離反した一派が結成した政党。発足時期は不明。ターヒル・サフーク(Ṭāhir Safūk)が書記長を務める[Mārtini 2003]。シリア・クルド民主戦線*に加盟し、同戦線の枠組みのなかで活動を展開するとともに、2003年10月5日の首相府前でのデモ(注14参照)などに参加した。また2004年3月12日にカーミシュリー事件が発生すると、ターヒル・サフークが他のクルド民族主義政党の幹部とともに政府・バアス党高官と数度にわたって会見し、事件の真相究明などを要求した(注16参照)。

11. シリア・クルド左派党

アラビア語名:

al-Ḥizb al-Yasārī al-Kurdī fī Sūriyā

クルド語名:

Partiya Çep a Kurd li Sûriyê(PCK-S)

1965年8月5日に開催されたシリア・クルド民主党*の「8月会議」(Konferansê Tebaxê)で、ウスマーン・サブリー(‘Uthmān Şabrī)書記長ら党内“左派”が、ヌールッディーン・ザーザー(Nūr al-Dīn Zāzā)党首やアブドゥルハミード・ダルウィーシュ(‘Abd al-Ḥamīd Darwish)ら“右派”と訣別して結成した政党。発足当初はシリア左派クルド民主党(al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Yasārī fī Sūriyā)と称した。分裂に際して、“左派”は、“右派”が(1)“クルド人民”という言葉で“マイノリティ”に置き換え、その政治目標をシリア国内におけるクルド人の社会的・文化的権利の確保に限定した、(2)階級闘争においてイクター(iqtā‘iyūn)ら“搾取階級”に与し、労働者・農民と敵対した、(3)KDPの指導に反対した、と非難し、すべてのクルディスタンの解放と統一を目標とする革命路線の継続を主張した[McDowall 2000, 478; Ramaḍān n.d.]

“左派”のウスマーン・サブリー書記長と“右派”のヌールッディーン・ザーザー党首はともに、アラブ連合共和国時代の1960年に逮捕された経験を持つが、この時の両者の法廷での姿勢の違いは、シリア・クルド民主党とシリア・クルド左派党の分裂を暗示していた。すなわち、ウスマーン・サブリー書記長は法廷でクルド民族主義を擁護し続け、禁固1年半を宣告されたのに対し、ヌールッディーン・ザーザー書記長は当局の圧力に屈するかたちで自らの思想・活動を自己批判し、禁固1年の刑を言い渡されるにとどまった。

シリア・クルド左派党は、発足とともに機関紙『デンゲ・クルド』(Dengê Kurd)を刊行。同

紙は1975年1月の第4回党大会で『イッティハード・アッ=シャアブ』(*al-Ittihad al-Sha'b*)に改称された。

シリア・クルド左派党はこれまで数度にわたって分裂を繰り返している。1975年、サラーフ・バドルッディーン(Şalāḥ Badr al-Dīn)書記長(1969年にウスマーン・サブリーの後任として就任)が、イラクのバアス党政権に協力的なクルド人との連携を主張すると、これに反対する勢力がサラーフ・バドルッディーンを解任し、イスマト・サイダー(ʿIṣmat Saydā)を書記長に任命した。これによりシリア・クルド左派党はサラーフ・バドルッディーン派とイスマト・サイダー派に分裂した(注17)。その後、イスマト・サイダー派とサラーフ・バドルッディーン派の両派から分離した勢力が、79年にシリア・クルド統一社会主義党(後のシリア・クルド社会主義党*)を結成し、82年にはイスマト・サイダー派を離反した一派がシリア・クルド労働党*となった。また90年には、イスマト・サイダー派を離反した一派が、シリア・クルド労働党とシリア・クルド民主党(アル・パルティー)の元党员とともに統一クルド民主党*を結成した。なおサラーフ・バドルッディーン派は80年8月にシリア・クルド人民連合党*に改称した[Barwārī n.d.; McDowall 2000, 478, 484; Nimr 1995]

現在、シリア・クルド左派党は、ハイルッディーン・ムラード(Khayr al-Dīn Murād)派とハイルッディーン・イブラーヒーム(Khayr al-Dīn Ibrāhīm)派の2派に分かれている[Akḥbār al-Sharq 2002b; 2002d]

ハイルッディーン・ムラード派は、イスマト・サイダー派の後身で、ユースフ・ディーブー(Yūsuf Dībū), ムハンマド・シャイフムース

(Muḥammad Shaykhmūs)が書記長を務めたのち、2003年6月にハイルッディーン・ムラードが同職を継承した。シリア・クルド民主同盟*発足(1992年)以来の加盟党派であるハイルッディーン・ムラード派は、第8期人民議会選挙(2003年3月2~3日投票)への参加を決定した同盟内で独断的に候補者の選定を進めるシリア・クルド民主統一党(イエキーティー)*と対立、このことが原因となり、クルド民族主義政党は選挙のボイコットを余儀なくされた[Hizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā 2003a]。だが同年6月25日のダマスカス市のユニセフ事務所前でのデモ(注13参照)に参加するなど、シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)をはじめとする他のクルド民族主義政党との協力関係を維持している。

ハイルッディーン・イブラーヒーム派は、シリア・クルド民主戦線*に加盟(2001年)する組織で、イスマト・ファトフッラーフ(ʿIṣmat Faṭḥ Allāh), ハサン・ムハンマド・ユースフ・ムーサー(Ḥasan Muḥammad Yūsuf Mūsā)が書記長を務めたのち、2001年にハイルッディーン・イブラーヒームが同職に就任した。同派は2003年10月5日の首相府前でデモ(注14参照)に参加した。またカーミシュリー事件における民衆暴動や抗議行動が収束した直後の2004年4月24日には、ムハンマド・ムーサー(Muḥammad Mūsā)が、他のクルド民族主義政党の代表とともにムスタファー・トゥラース(Muṣṭafā Ṭulas)国防大臣(当時)と会見し、同事件で逮捕されたクルド人の釈放などを要求した(注18)。

12. シリア・クルド社会主義党

アラビア語名:

al-Ḥizb al-Ishtirākī al-Kurdī fī Sūriyā

シリア・クルド左派党*イスマト・サイダー派を離反したサーリフ・カドゥー(Şalih Kadû), リファト・ウスマーン(Rif'at 'Uthmān), アズィーズ・サルキス('Aziz Sarkis)らが, シリア・クルド左派党サラーフ・バドルッディーン派のメンバーだったアフマド・ハリール(Ahmad Khalil)とともに1979年に結成した政党。発足当初はシリア・クルド統一社会主義党(al-Hizb al-Ishtirākī al-Kurdī al-Muwaḥḥad fī Sūriyā)と称していたが, 82年にシリア・クルド社会主義党に改称した。書記長はサーリフ・カドゥー。機関紙は『アル=イシュティラーキー』(al-Ishtirākī)

シリア・クルド社会主義党の結成は, 1976年にサラーフ・バドルッディーン派が党勢拡大をめざし, サーリフ・カドゥーらの移籍を画策したことを契機としていた。サラーフ・バドルッディーン派とサーリフ・カドゥーらの交渉は, イラクのバース党政権に協力的なクルド人との断交を主張する後者の要求を前者が拒否したことで失敗に終わった。だが, サーリフ・カドゥーらはこの機にイスマト・サイダー派を離反し, マルクス・レーニン主義を前面に押し出した独自の政治活動を開始するとともに, 時を同じくしてサラーフ・バドルッディーン派を離れたアフマド・ハリールらを懐柔し, 新党結成に踏み切った。

PKKと同盟関係にあったシリア・クルド社会主義党は, アブドゥッラーフ・オジャラーン(Abdullah Ocalan)PKK党首がシリアから“追放”(1998年10月, その後99年2月にナイロビで逮捕)されて以降, 勢力を失った。そして2002年6月半ば, カーミシュリー市でシリア・クルド進歩民主党*アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派が主催するシリア・クルディスターン民主党

結成45周年に参列し, その場で同派との合併に合意し, 解党した。なおサーリフ・カドゥー書記長はこの合併を受け, シリア・クルド進歩民主党アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派の政治局メンバーとなった[*Akhbār al-Sharq* 2002b; Nimr 1995; Ramaḍān n.d.; Rashīd 2002]

13. シリア・クルド進歩民主党

アラビア語名:

al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaddumī al-Kurdī fī Sūriyā

クルド語名:

Partiya Dêmoqrati Pêşverû Kurd li Sûrya (PDSKS)

1977年, シリア・クルド民主党*アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派が第4回党大会でシリア・クルド進歩民主党に改称して発足[al-Maḥmūd 2003]。「自由, 民主主義, 平等」を基本原則とする。

シリア・クルド進歩民主党はこれまで2度分裂を経験している。最初の分裂は, 1980年, アレッポ機構(Munazzama Halab)のメンバーが「クルド人民の自決権」獲得とマルクス主義の重視を主張し, シリアにおける「クルド人マイノリティの民主的権利」の向上をめざすアブドゥルハミード・ダルウィーシュ書記長らに異議を唱えたことに端を発した。アレッポ機構と指導部の対立は82年に決定的となり, その結果, 多くの党員が離党[Ibrāhīm n.d.; Nimr 1995], その一派がアズィーズ・ダーウド派になったと考えられる。第2の分裂はアズィーズ・ダーウド派からのシリア・クルド国民民主党*の離反であるが, その時期は定かでない。

シリア・クルド進歩民主党は現在, アブドゥ

ルハミード・ダルウィーシュ派とアズィーズ・ダーウド派の2派に分裂している。

アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派は、「一般的自由の拡充と民主主義の普及、平等と社会的公正の実現、シリアのクルド人民への民族的諸権利の保障、のために」をスローガンとし、機関紙『アル=ディームクラティー』(*al-Dīmuqrātī*)を発行するとともに、ホームページ<http://www.dimoqrati.org/>を開設している。1994年にシリア・クルド民主同盟*に新規加盟を果たし、2002年6月半ばにシリア・クルド社会主義党*を吸収合併した。書記長のアブドゥルハミード・ダルウィーシュは90年5月の第5期人民議会選挙でハサカ県選挙区から無所属で出馬し、当選した経歴を持つ(注11参照)。

アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派は、バッシュール・アサド政権が進める“上からの改革”の枠内での政治参加をめざし、2002年10月初めにはダマスカス市に隣接するダウンマル市近郊のワーディー・アル=マシャーリーウで「円卓会議」(*tāwila mustadira*)を、2003年8月上旬にはカーミシュリー市で「国民対話集会」(*jalsa ḥiwār waṭāni*)を主催し、反政府組織の指導者・活動家だけでなく、バアス党やシリア共産党(*al-Hizb al-Shuyū'ī al-Sūrī*)といった“政権与党”の代表も交えたかたちで、クルド問題についての討論を行なった[*Akhbār al-Sharq* 2002d; *al-Hizb al-Dīmuqrātī al-Taqaaddumī al-Kurdī fī Sūriyā* 2003]

2004年3月12日にカーミシュリー事件が発生すると、アブドゥルハミード・ダルウィーシュは、他のクルド民族主義政党の幹部とともに政府・バアス党高官と数度にわたって会見し、また4月24日にもムスタファー・トゥラース国防

大臣(当時)と会見するなど(注16, 18参照)、政権との対話を重視した。

だがこうした政権寄りの姿勢にもかかわらず、同派の幹部・党員は度々、当局によって逮捕されている。例えば2002年11月3日、中央委員会メンバーのアフマド・ムスタファー・カーシム(*Aḥmad Muṣṭafā Qāsīm*)が、党の出版物を所持していたとの理由でアイン・アル=アラブ市で逮捕された[*al-Dīmuqrātī*(<http://dimoqrati.org/>) 2003; *al-Zamān* 2002] またカーミシュリー事件発生直後の2004年3月13日にワーディー・アル=マシャーリーウにあるクルド人の不法占拠地区ゾール・アーヴァーで行なわれた抗議デモでは、事態の收拾にあっていたとされる政治局メンバーのタマル・ムスタファー(*Tamar Muṣṭafā*)が逮捕された[Efrin.net 2004b]

一方、アズィーズ・ダーウド派は、「アラブ・クルド同胞関係の強化、一般的自由の保障、民主主義の普及、社会的公正の実現、シリアのクルド人民にとって合法的な民族的諸権利の保障、のために」をスローガンとし、アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派と同名の機関紙『アル=ディームクラティー』(*al-Dīmuqrātī*)を発行するとともに、ホームページ<http://kurdmerd.tripod.com/>を開設している。書記長はアズィーズ・ダーウド。シリア・クルド民主戦線*に加盟する同派は、この戦線の枠組みのなかで活動を展開するとともに、2003年10月5日の首相府前でのデモ(注14参照)などに参加した。

14. シリア・クルド人民連合党

アラビア語名:

Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdī fī Sūriyā

クルド語名：

Partiya Hevqirtina Gelê Kurd li Sûriyê

1980年8月5日、シリア・クルド左派党*サラーフ・バドルッディーン派が第5回党大会で党名を改称して発足^(注19)。書記長は発足以来、サラーフ・バドルッディーンが務めてきたが、2003年8月末に勇退し、ムスタファー・ジウムア(Muştafâ Jum'a)が後任となった[Hizb al-Ittihad al-Sha'bi al-Kurdi fi Sûriyâ al-Lajna al-Markaziya 2003c]

機関紙『イッティハード・アル＝シャアブ』(Ittihad al-Sha'b, アラビア語, 月刊)と『ヘヴグルトウン』(Hevqirtin, クルド語)を刊行するとともに、ホームページ<http://www.hevqirtin.org/>を開設している。

スローガンは「民主主義を国に、シリアのクルド人民の自決権の根本的承認」。シリア、トルコ、イラク、イランのクルド人の自決権獲得を謳ってはいるが、クルディスタンの独立・統一ではなく、シリア国内でのクルド人の政治的・社会的・文化的諸権利の保障、人種差別の撤廃、クルド人の存在と民族的・文化的・政治的多元主義を保障した新憲法の制定、平和的対話によるクルド問題の解決、民主主義、人権、一般的諸自由の実現などをめざす[<http://www.hevqirtin.org/arabic.htm> (2004年12月閲覧)]

1990年5月の第5期人民議会選挙で党員の1人、フアード・アリークーがハサカ県選挙区から無所属で出馬し、当選した(注11参照)。だが92年、彼を中心とする一派は離党し、シリア・クルド労働党*と統一クルド民主党*の元党員とともに、シリア・クルド・イエキーティー党*を結成した。

1992年にシリア・クルド民主同盟*の発足に

参加したシリア・クルド人民連合党は、90年代を通じて同盟内で指導的な役割を担ってきた。だが2002年6月、同盟内のシリア・クルド進歩民主党*アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派がカーミシュリー市で、ムンズイル・ムーサッリー(Mundhir al-Muşallî)人民議会副議長(当時)ら政府関係者を招待してシリア・クルディスタン民主党結成45周年祝典を開催したことに抗議し、同盟への加盟凍結を宣言した[*Akhbâr al-Sharq* 2002b ; Rashid 2002]

2003年以降、シリア・クルド人民連合党は他のクルド民族主義政党と共同歩調をとるようになり、同年6月25日のダマスカス市のユニセフ事務所前でのデモ(注13参照)、10月5日の首相府前でのデモ(注14参照)、12月10日の首相府前でのデモ(注9参照)、そして2004年8月30日のダマスカス市の国家最高治安裁判所前でのデモ(注15参照)に参加した。また2005年1月には、シリアの主要な反政府組織とともに基本的自由・人権擁護国民調整委員会*を結成した。

一方、第8期人民議会選挙(2003年3月2～3日投票)では、2003年2月17日、他のクルド民族主義政党とともにシリアにおけるすべてのクルド政党*の名で共同声明を発表し、ハサカ県選挙区で統一候補を擁立する合意に達したことを明らかにした。だが2月22日、バアス党と進歩国民戦線の圧勝があらかじめ約束され、クルド人が人口比に応じた議席数を確保できない現行の選挙制度を批判し、立候補と投票のボイコットを宣言した[Hizb al-Ittihad al-Sha'bi al-Kurdi fi Sûriyâ al-Lajna al-Markaziya 2003a] 同様のボイコット宣言は統一地方選挙(2003年6月投票)でも行なわれた[Hizb al-Ittihad al-Sha'bi al-Kurdi fi Sûriyâ al-Lajna al-Markaziya 2003b]

2004年3月12日にカーミシュリー事件が発生すると、政治局メンバーのバッシュアル・アミン(Bashshār al-Amīn)が他のクルド民族主義政党の幹部とともに政府・バアス党高官と数度にわたって会見し、事件の真相究明などを要求した(注16参照)。

シリア・クルド人民連合党はその反政府的な言動ゆえにしばしば当局の弾圧を受けており、2000年12月10日、党員のフサイン・ダーウド(Husayn Dāwud)がダマスカス国際空港で逮捕され、2002年3月20日に国家最高治安裁判所で禁固2年の有罪判決を受けた[Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bī al-Kurdī fī Sūriyā al-Maktab al-Siyāsī 2002]^{注20}。またカーミシュリー事件発生直後の2004年3月14日、アイン・アル=アラブ市でゼネストが起きると、ムスタファー・ジュムア書記長が逮捕された[Efrin.net 2004a]

なお *Akhbār al-Sharq* [2002e]によると、2002年8月下旬、シリア・クルド人民連合党は、シリア・ムスリム同胞団(Jamā'a al-Ikhwān al-Muslimīn fī Sūriya)の主催によりロンドンで開催された第1回国民対話会議(al-Mu'tamar al-Waṭani al-Awwal li-l-Ḥiwār)にクルド民族主義政党として唯一代表を派遣した。

15. シリア・クルド民主行動党

アラビア語名：

Hizb al-'Amal al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā

1981年、シリア・クルド民主党(アル・パルティー)*カマル・ダルウィーシュ(Kamāl Darwish)派を離反した政治局メンバー(アレッポ・ジャバル・アル=アクラード機構[Munazzama Ḥalab wa Jabal al-Akrād]担当)のシャイフ・アーリー(Shaykh Ālī)が結成した政党。この分裂は81年

11月の第3期人民議会選挙への参戦をめざしたカマル・ダルウィーシュと、選挙のボイコットを主張するシャイフ・アーリーとの路線対立に端を発していた。だが両者の対立へのKDPの関与が疑われるにいたり、KDPとの関係・協力の是非が争点として浮上、前者が親KDPの立場を、後者が反KDPの立場を表明した。

シャイフ・アーリーらは離反当初、シリア・クルド民主党(アル・パルティー)(シャイフ・アーリー派)を名乗ったが、1983年、クルディスタン民主人民党*のサーミー・アブドゥラフマン書記長の支持を得て、シリア・クルド民主行動党に改称した。

シリア・クルド民主行動党は、マルクス・レーニン主義を重視し、非民主的な選挙の拒否などを主唱したが、現在は活動していない[Nimr 1995; Ramaḍān n.d.]

16. シリア・クルド民主党(アル・パルティー)

アラビア語名：

al-Ḥizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā(al-Bārtī)

クルド語名：

Partiya Demokrat ya Kurdî li Sûriyê(al Partî)

通称 アル・パルティー(Al Partî)

1957年6月14日、ヌールッディーン・ザーザー、ウスマーン・サブリー、アブドゥルハミード・ダルウィーシュ、ハムザ・ヌワイラーン(Ḥamza Nuwayrān)らが、元シリア共産党員、有識者、労働者、農民とともに結成したシリア初のクルド民族主義政党^{注21}。初代党首はヌールッディーン・ザーザー、初代書記長はウスマーン・サブリー。KDPを範として発足した同党は当初、シリア・クルディスタン民主党(al-Ḥizb

al-Dīmuqrāṭī al-Kurdistānī fī Sūriya)を名乗り、革命的手段によるクルディスタンの解放、独立、統一をめざした。だが58年にシリア・クルド民主党に変更し、この急進的な路線を修正し、クルド人の民族としての承認、民主的政体の確立、農業改革、アル＝ジャズィーラ地方の開発などを要求するようになった[McDowall 1992, 122; 2000, 477-478; Nazdar 1980, 215] 発足当初の機関紙は『アル・パルティー』(*Al Partî*)。

1959年、アラブ連合共和国のもとでシリアにおけるすべての政党・政治組織の解体と翼賛的な民族連合(*al-Ittihad al-Qawmī*, 1957年発足)への糾合が断行されると、シリア・クルド民主党は大規模な弾圧に曝されていった。60年8月10日(注22)、ヌールッディーン・ザーザー党首、ウスマーン・サブリー書記長ら党幹部と党員、そして5000名に及ぶ「容疑者」[McDowall 1992, 122] が逮捕されたのである。

逮捕されたシリア・クルド民主党のメンバーに対して、当局はクルド民族主義の放棄と党活動への批判を強要した。その結果、ヌールッディーン・ザーザー党首は、国家最高治安裁判所での公判で「クルディスタンの解放は幻想にすぎない」[*Ramaḍān n.d.*]との証言を余儀なくされ、1960年12月、13名の党員とともに禁固1年を宣告された。一方、当局の圧力に屈しなかったウスマーン・サブリー書記長ら15名は、61年3月に禁固1年半を宣告された[Kinnane 1964, 44; Mannā' 2004, 7; *Ramaḍān n.d.*]

1961年9月の分離クーデタでシリアがアラブ連合共和国を離脱した後も弾圧は続いた。61年半ばまでに指導者・党員全員を釈放されたシリア・クルド民主党は、議会制のもとでの政治参加をめざし、制憲議会選挙においてヌールッデ

ィーン・ザーザー党首とムハンマド・イーサー・マフムード(*Muḥammad 'Īsā Maḥmūd*)の2名をハサカ県選挙区で擁立した。だが投票日の61年12月1日、両候補はカーミシュリー市で逮捕され、その当選をはばまれたのである[Kinnane 1964, 44; Mannā' 2004, 7](注23)。

こうした弾圧のなか、クルド人の社会的・文化的権利の向上を重視しようとするヌールッディーン・ザーザー党首やアブドゥルハミード・ダルウィーシュら“右派”と、クルディスタンの解放と統一を目標とする革命路線に沿った闘争の継続をめざすウスマーン・サブリー書記長ら“左派”が対立し、1965年に後者が離反し、シリア・クルド左派党*となった。

シリア・クルド民主党の分裂はその後も続いた。1970年8月、イラクのノウペドラン(*Nowpedran*)で、KDPのムスタファー・パールザーニー(*Muṣṭafā al-Bārzanī*)党首の呼びかけ・仲介により、シリア・クルド民主党とシリア・クルド左派党の再統一が討議された。だがこの試みは失敗に終わっただけでなく、ダッハーム・ミールーらシリア・クルド民主党内の親KDP派が分離し、暫定指導部(*Provisional Leadership*)を結成(注24)、これによりシリア・クルド民主党はアブドゥルハミード・ダルウィーシュ派とダッハーム・ミールー派に分裂した[*Badr al-Dīn* 2001]。また75年、ダッハーム・ミールー派からクルド・シリア民主党*が分離し、77年にはアブドゥルハミード・ダルウィーシュ派がシリア・クルド進歩民主党*に改称した。

アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派の改称によって、シリア・クルド民主党を名のる唯一の党派となったダッハーム・ミールー派では、ハミード・サイドゥー(*Ḥamid Saydū*)が書

記長を務めた後、イリヤース・ラムクー (Ilyās Ramkū) が同職を継承し、機関紙『サウト・アル=アクラード デンゲ・クルド』(*Şawt al-Akrād : Dengê Kurd*) の発行などを通じて活動が行なわれた [Nimr 1995]。しかし 1978 年、同派はシリア・クルド民主党 (アル・パールティー) とシリア・クルド民主党に分裂した [McDowall 2000, 478]。そして 81 年、シリア・クルド民主党 (アル・パールティー) を離反した一派がシリア・クルド民主行動党* となり、90 年、同じくシリア・クルド民主党 (アル・パールティー) を離れた一派が、シリア・クルド左派党とシリア・クルド労働党* の元黨員とともに統一クルド民主党* を結成した。

現在、シリア・クルド民主党 (アル・パールティー) を名乗る党派は、ナスルッディーン・イブラーヒーム (Naşr al-Dīn Ibrāhīm) 派とムハンマド・ナズィール・ムスタファー (Muḥammad Nadhīr Muştafā) 派の 2 派が確認されている。

ナスルッディーン・イブラーヒーム派はシリア・クルド民主同盟* に加盟する党派で、1980 年から 97 年までカマル・ダルウィーシュが書記長を務め、97 年以降はナスルッディーン・イブラーヒームが同職を務める [al-Hizb al-Dīmuqrātī al-Kurdī fī Sūriyā (al-Bārtī) Munazzama Ūrubbā 2003 ; Ibrāhīm n.d.]。機関紙『サウト・アル=アクラード デンゲ・クルド』(*Şawt al-Akrād : Dengê Kurd*) を刊行している他 (注 25)、ホームページ <http://www.alparty.org/> を開設している。スローガンは「我らが人民大衆よ、我らがクルド人民に対する民族的抑圧の根絶、人種主義的計画と例外的諸法律の廃止、アラブ・クルド同胞関係の絆の強化、シリアのクルド人民への政治的・文化的・社会的権利と、国内にお

ける民主主義の保障、のために闘争せよ」。なお、90 年 5 月の第 5 期人民議会選挙でカマル・ダルウィーシュ書記長 (当時) がハサカ選挙区から無所属で出馬し当選した (注 11 参照)。またナスルッディーン・イブラーヒーム書記長は、カーミシュリー事件における民衆暴動や抗議行動が収束した直後の 2004 年 4 月 24 日、他のクルド民族主義政党の代表とともにムスタファー・トゥラース国防大臣 (当時) と会見し、同事件で逮捕されたクルド人の釈放などを要求した (注 18 参照)。

ムハンマド・ナズィール・ムスタファー派はシリア・クルド民主戦線* に加盟する党派で、ナスルッディーン・イブラーヒーム派から分離したと考えられる。党首はムハンマド・ナズィール・ムスタファーが務める。

なおこの 2 派の他に、アブドゥッラフマン・アールジー ('Abd al-Raḥmān Ālūjī) 政治局メンバーが分派を結成していたが、2004 年 3 月 7 日、ナスルッディーン・イブラーヒーム派と再統一した [al-Hizb al-Dīmuqrātī al-Kurdī fī Sūriyā (al-Bārtī) 2004]。

17. シリア・クルド民主統一党 (イェキーティー)

アラビア語名:

Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrātī al-Kurdī fī Sūriya
(Yakīti)

クルド語名:

Partiya Yekîti ya Demokrat ya Kurd li Sûriyê
(Yekîti)

1993 年 4 月、シリア・クルド・イェキーティー党* の母体となった「共同指導部」を離反したイスマーイル・ウマル (別名イスマーイル・アムウ [Ismâ'il 'Amw, クルド語での表記は İsmail Emo])

らが結成した政党[Şêxo 2003 ; Şûro 2003]。初代書記長はイスマーイル・ウマル。現在はムフイーッディーン・シャイフ・アーリー(Muhyî al-Dîn Shaykh Âlî)が書記長を務める。機関紙『アル=ワフダ』(*al-Wahda*)を刊行している他、ホームページ『ネウロズ』(*Newroz* , <http://www.yek-dem.com/>)と<http://www.yekiti.nl/>を開設している。スローガンは「シリアのクルド人民に対する民族的抑圧の解除, 民主的諸自由と人権尊重, 国民統合の枠組みのなかで我らクルド人民にとって合法的な民族的諸権利, のための闘争」。

1999年, シリア・クルド民主同盟*への新規加盟を果たしたシリア・クルド民主統一党(イエキーティー)は, 第8期人民議会選挙(2003年3月2~3日投票)において主導的な役割を果たした。2003年2月6日, 同盟が選挙戦への参加を表明すると, シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)は, アレッポ市選挙区, アレッポ県諸地域選挙区, ラッカ県選挙区で自らの党員を同盟の代表候補として擁立した(注26)。またシリアにおけるすべてのクルド政党*の2月17日の声明で発表されたハサカ県選挙区でのクルド人統一候補の擁立は, イスマーイル・ウマルのイニシアチブによるものであった。しかし, 候補者選定を独断的に進めるシリア・クルド民主統一党(イエキーティー)に対して, 同盟内のシリア・クルド左派党*ハイルッディーン・ムラード派が反発し, この対立が原因となりクルド民族主義政党は選挙のボイコットを余儀なくされた。

しかしシリア・クルド民主統一党(イエキーティー)は, 他のクルド民族主義政党との協力関係を維持しており, 2003年6月25日のダマスカ

ス市のユニセフ事務所前でのデモ(注13参照), 10月5日の首相府前でのデモ(注14参照), 2004年8月30日のダマスカス市の国家最高治安裁判所前でのデモ(注15参照)に参加した。またカーミシュリー事件における民衆暴動や抗議行動が収束した直後の2004年4月24日, イスマーイル・ウマルが他のクルド民族主義政党の代表とともにムスタファー・トゥラース国防大臣(当時)と会見し, 同事件で逮捕されたクルド人の釈放などを要求した(注18参照)。

シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)はその反政府的な言動により, 指導者・党員をしばしば逮捕されている。2002年5月17日, 党員のムスリム・シャイフ・ハサン(Muslim Shaykh Hasan)が, 「国民統合に抵触するような党出版物約600部を所持していた」との理由でアイン・アル=アラブ市で逮捕され, 2002年8月に禁固3カ月の有罪判決を受けた[*Akhhbâr al-Sharq* 2002a; 2002c](注27)。また2003年8月22日, アブドゥッラフマーン・カワーキビー国民対話会議(Muntadâ 'Abd al-Rahmân al-Kawâkibî li-l-Hiwâr al-Watâni)に出席していた政治委員会(政治局に相当)メンバーのザルダースト・ムハンマド(Zardâst Muḥammad)が, 会議の主催者など13名とともに逮捕・起訴された[*Hizb al-Wahda al-Dîmuqrâṭî al-Kurdî fî Sûriyâ(Yakîti) al-Lajna al-Siyâsiya* 2002]。さらに2004年4月1日, 指導委員会(al-Hay'a al-Siyâsiya)のムハンマド・アリー・ムハンマド(Muḥammad 'Alî Muḥammad)が, アルビルでのKDPとPUKの事務所に対する爆破“テロ”の犠牲者追悼のため訪問・滞在していたイラクからの帰国直後, カーミシュリー市で逮捕された[*Hizb al-Wahda al-Dîmuqrâṭî al-Kurdî fî Sûriyâ(Yakîti) al-Lajna al-Siyâsiya*

2004]

18. シリア・クルド労働党

アラビア語名：

Hizb al-Shaghīla al-Kurdīya fī Sūriya

クルド語名：

Partiya Pale ya Kurd li Sūriyê

1982年、シリア・クルド左派党*イスマト・サイダー派を離反したスィブガトツラーフ・ハイザーニー(Sibgha Allāh Hayzānī), アブディー・ナアサーン('Abdī Na'sān)らが設立した政党。シリア・クルド労働党の結成は、シリア・クルド左派党イスマト・サイダー派とシリア・クルド進歩民主党*アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派の対立に端を発していた。80年2月、両党派はシリア・クルド民主党(アル・パールティー)*カマル・ダルウィーシュ派とともに、政治同盟の発足を定めた憲章に署名し、関係強化に乗り出そうとした。だがシリア・クルド進歩民主党アブドゥルハミード・ダルウィーシュ派がPUKの支援を通じた勢力拡大を主張すると、その是非をめぐるシリア・クルド左派党イスマト・サイダー派内で路線対立が激化、PUKとの連携を支持する勢力が離反し、新党結成に踏み切ったのである[Nimr 1995]

シリア・クルド労働党は目立った活動を展開しないままに衰退し、1990年代に入ると離反者が相次いだ。そのうち90年に離党した一派は、シリア・クルド民主党(アル・パールティー)とシリア・クルド左派党の元党员とともに統一クルド民主党*を結成した。また92年に離党した一派は、シリア・クルド人民連合党*と統一クルド民主党の元党员とともにシリア・クルド・イエキーティー党*を結成した。

19. シリア国民民主連合

アラビア語名：

al-Tajammu' al-Waṭanī al-Dīmuqrāṭī al-Sūri

1998年12月、クルド人約150名がダマスカスで結成大会を開き設立した組織。ムハンマド・マルワーン・ザルキー(Muḥammad Marwān al-Zarkī)が議長を務めた。スローガンは「シリアとハーフィズ・アサド大統領の指導への忠誠、権利と義務における平等の原則のもと、国民的一体感強化のために」。連合はアブドゥッラーフ・オジャラーンPKK党首がシリアから“追放”された後、同国内に残されたPKK党员を保護し、シリアの外交政策に奉仕させることを目的として結成された“傀儡”組織であり、ハーフィズ・アサド政権を支持する一方で、他のクルド民族主義政党を“不必要”とみなした。現在は活動していない[McDowall 2000, 479; *Yekiti* 2000]

20. シリア・ブルースク運動

アラビア語名：Ḥaraka Birûsk fī Sūriyā

1980年にムッラー・ムスタファー(Mullā Muṣṭafā)が発足。「ブルースク」(birûsk)はクルド語で「雷光」を意味する。機関紙『ブルースク』(Birûsk)を刊行。KDPのムスタファー・パールザーニーの思想の普及をめざすとともに、トルコ、イラク、イランにおけるクルド人への抑圧を非難したが、シリアのクルド問題についての言及を避ける傾向があった。現在は活動していない[Nimr 1995]

21. シリア民主連合党

アラビア語名：

Hizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī fī Sūriyā

クルド語名：

Partiya Yekiti ya Demokratik (PYD)

2003年9月、アリー・ムハンマド(‘Alī Muḥammad)、ムハンマド・ナズィール・スィルウ(Muḥammad Nadhīr Silw)らが結成。ホームページ<http://www.pyd.be/>を開設。シリアの国家と社会の民主化をめざすとともに、クルド人の分離ではなく、自由で民主的な連邦制の設立を通じたクルド問題の解決を標榜する。だが党の方針には、シリアに党組織を結成する意思を表明したKADEKの影響が色濃く見られる[Efrin.net 2003; <http://www.pyd.be/pyd/English/DEMOCRATICLIBERATIONANDTHESOLUTIONOF.htm> (2004年12月閲覧)]

2004年8月7日、カーミシュリー市で党の支持者が逮捕されたが[Efrin.net 2004f]、8月30日のダマスカス市の国家最高治安裁判所前でのデモ(注15参照)などに参加するなど、活動を継続している。

22. 統一クルド民主党

クルド語名：

Partiya Demokrat a Kurd a Yekbûyî

1990年、シリア・クルド民主党(アル・パールティー)*カマール・ダルウィーシュ派、シリア・クルド左派党*、シリア・クルド労働党*をそれぞれ離反した勢力が結成した政党。

統一クルド民主党は発足当初から離反者が相次いだ。このうち1992年に離反した一派は、シリア・クルド人民連合党*とシリア・クルド労働党の元党員とともにシリア・クルド・イエキーティー党*の母体となる「共同指導部」を結成した。また指導者の1人でシリア・クルド民主党(アル・パールティー)カマール・ダルウィー

シュ派の元メンバーだったイスマール・ウマルは、91年に統一クルド民主党を離れ、シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)*を結成した。現在は活動していない[Şêxo 2003]

23. ホーイブーン

クルド語名：Xoybûn

フランス委任統治下の1927年にジェラードト・ベドウルハーン(Celadet Bedirxan)^{注28}がカーミシュリー市で結成したシリア初のクルド人組織。「ホーイブーン」(xoybûn)はクルド語で「独立」を意味する。セープル条約(1920年)におけるクルド民族国家構想とローザンヌ条約(1923年)によるその挫折を受けて高揚したクルド民族主義に共鳴し、クルド人の政治的・文化的自治をめざした。同運動は当初、委任統治当局の支援を受けたが、まもなくシリア独立をめざすアラブ民族主義者とシリア国民主義者がその分離主義的傾向に反感を抱き、またトルコ政府がその反トルコ・キャンペーンに抗議するにいたり、1928年夏に活動停止処分となった[Badr al-Din 2003, 15-16, 159; McDowall 1992, 122; 2000, 468]

(注1) シリアの政党・政治組織がよりどころとする主なイデオロギー・思想の特徴については、Darrāj and Bārūt[1999; n.d.]などを参照。

(注2) シリアの政党・政治組織のなかで“非合法”と認定されているのはシリア・ムスリム同胞団だけであり、1980年7月8日法律第49号において「[シリア・]ムスリム同胞団に所属するすべての者は罪人であり、死刑に処される」と定められている。

(注3) フスニー・ザイーム(Ḥusnī al-Za‘īm)大佐(1949年3月のクーデタの首謀者)、サーミー・ヒン

- ナーウィー(Samī al-Hinnāwī)准将(49年8月のクーデタの首謀者)、アディーブ・シーシャクリー(Adib al-Shishaklī)大佐(49年11月と51年11月のクーデタの首謀者)の3名である。
- (注4) 1962年8月23日に制定された1962年法律第93号に基づき、10月5日にハサカ県で実施された人口統計の再調査。この調査によって、多くのクルド人が外国人と認定され、国籍を剥奪された。
- (注5) 社会主義化と農地改革の名のもと、ラアス・アル=アイン市西部からイラク国境に至る全長約275キロメートル、幅約10キロメートルから15キロメートルのトルコ国境地帯に居住するクルド人農民(332村に住む約14万人)を追放し、その土地を没収したうえで、アレppo県やラッカ県出身のアラブ人を入植させ、国営のモデル農村を建設することを目的とした構想。これに従い、1960年代後半以降、クルド人農民の土地没収・追放、アラブ人入植者の移民、クルド語起源の農村名のアラビア語名への改称、公の場でのクルド語による会話の禁止などといった措置が実施された。
- (注6) 2000年9月から2001年9月にかけてシリア国内の有識者によって主導された改革運動の通称。その詳細については、青山[2005]を参照。
- (注7) 2003年3月12日にカーミシュリー市で予定されていた地元サッカー・チームとデイル・ゾール県所属のチームとの対戦直前に起きた、両チーム・サポーター(地元のクルド系住民とデイル・ゾール県から訪れたアラブ系住民)のスタジアム内での衝突に端を発した民衆暴動で、カーミシュリー市だけでなく、ハサカ市、アフリーン市、アイン・アル=アラブ市、ダマスカス市、アレppo市などにも波及した。一連の暴動・抗議行動は、警察・治安部隊の弾圧によって同月18日までに収束したが、その間、30名以上が死亡、約130名が負傷し、約1700名の市民が逮捕された。
- (注8) Efrin.net[2004d; 2004e]によると、2004年5月31日、フアード・アリークー、サーリフ・カドゥー、アズィーズ・ダーウドが軍事情報局(Shu'ba al-Mukhābarāt al-'Askariya)に呼び出され、活動禁止を通告されるとともに、協会・民間団体法(1958年第93法、1958年7月8日施行)に則って公認申請するよう要請された。また2004年6月2日、シリア治安当局はナスルッディーン・イブラーヒームにも同様の通達・要請を行なった。
- (注9) このデモには、シリア・クルド人民連合党、シリア・クルド・イエキーティー党、シリア・クルド民主同盟、クルド民主戦線といったクルド民族主義政党・政治同盟だけでなく、国籍剥奪者権利擁護委員会(Lajna al-Difā' 'an Ḥuqūq al-Mujarradīn min al-Jinsiya)、市民社会再生諸委員会(Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madani)、シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会(Lijān al-Difā' 'an al-Ḥurriyāt al-Dīmuqrāṭiyya wa Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā)、シリア人権協会(Jam'iya Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā)、シリア・グローバリズム抵抗活動家(Nāshitū Munāḥaḍa al-'Awlama fī Sūriyā)、シリア人権文化クラブ(al-Muntadā al-Thaqāfi li-Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā)、シリア人権擁護連盟(Rābiṭa al-Difā' 'an Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā)、ヒムス・パレスチナ・イラク救済委員会(Lajna Naṣra Filasṭīn wa al-'Irāq bi-Ḥimṣ)、ジャマール・アタスィー民主的対話会議(Muntadā Jamāl al-Atāsi li-l-Ḥiwār al-Dīmuqrāṭī)、共産主義行動党(Hizb al-'Amal al-Shuyū'i)、国民民主連合(al-'Tajammu' al-Waṭani al-Dīmuqrāṭī)が参加し、戒厳令の解除、政治犯の釈放、国籍剥奪者の権利回復、国外亡命者の帰国、一般的諸自由の保証などが要求された[“Mudhakkira ilā al-Sayyid Ra'īs Majlis al-Wuzarā” 2003; “Taṣriḥ Ṣūḥufi...” 2003]
- (注10) Ḥamw[2003]によると、「共同指導部」は1991年に発足した。
- (注11) 第5期人民議会選挙では、フアード・アリークー、アブドゥルハミード・ダルウィーシュ、カマール・ダルウィーシュがハサカ県選挙区から無所属で出馬し、当選した[As'īd 2002, 492; McDowall 2000, 478-479]
- (注12) 逮捕から14カ月を經ていたマルワーン・ウスマーンとハサン・サーリフは判決とともに釈放された。
- (注13) シリア・クルド左派党ハイルッディーン・ムラード派、シリア・クルド人民連合党、シリア・クルド民主統一党(イエキーティー)、シリア・クルド・イエキーティー党が組織したこのデモでは、クルド人を含むすべてのシリア人児童の平等、クルド人に対する不正や排外的措置の廃止、学校でのクルド語教育の解禁とクルド語の使用許可などが要求された。これに対して治安当局は、デモに参加したム

ハンマド・ムスタファー(Muḥammad Muṣṭafā), アーミル・ムラード(‘Āmir Murād), サラール・サーリフ(Sālār Šālīḥ), ハーリド・ムハンマド・アリー(Khālīd Muḥammad ‘Alī), フサイン・ラマダーン(Husayn Ramaḍān), フーザーン・ムハンマド・アミン・イブラーヒーム(Hūzān Muḥammad Amin Ibrāhīm), ムハンマド・シャリーフ・ファラマーン(Muḥammad Sharīf Faramān)を逮捕した[Aṭfāl al-Kurd fī Sūriyā 2003; Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fī Sūriyā(Yakīti) et al. 2003; Hizb al-Yasāri al-Kurdī fī Sūriyā et al. 2003]

(注14) このデモには、シリア・クルド左派党ハイルッディーン・イブラーヒーム派, シリア・クルド進歩民主党アズィーズ・ダーウド派, シリア・クルド人民連合党, シリア・クルド民主統一党(イエキーティ), シリア・クルド・イエキーティ党, シリア・クルド国民民主党といったクルド民族主義政党の他にも、シリア民主的諸自由・人権擁護諸委員会, シリア人権協会, 市民社会再生諸委員会, 国籍剥奪者権利擁護委員会が参加し、国籍を剥奪されたクルド人の権利回復などが要求された[al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaḍdumī al-Kurdī fī Sūriyā et al. 2003; Lijān al-Difā‘ ‘an Ḥuqūq al-Insān fī Sūriyā et al. 2003; al-Mu‘tašimūn al-Mujarradūn min al-Jinsiya al-Sūriya 2003]

(注15) シリア・クルド左派党(党派は不明), シリア・クルド人民連合党, シリア・クルド民主統一党(イエキーティ), シリア・クルド・イエキーティ党, シリア民主連合党が組織したこのデモは、同年3月のゾール・アーヴァーでのデモで逮捕されたクルド人15名の公判に合わせて実施され、言論犯の釈放が要求された[Hizb Yakīti al-Kurdī fī Sūriyā et al. 2004]

(注16) 2004年3月中旬, ファード・アリークー, アブドゥルハミード・ダルウィーシュ, ターヒル・サフク, バッシャル・アミンといったクルド民族主義勢力の指導者・活動家が, アリー・ハンムード内務大臣, ヒシャム・ピフティヤール(Hishām Bikhtiyār)総合情報部(Idāra al-Mukhābarāt al-‘Āmma)長, ムハンマド・マンスーラ(Muḥammad Manšūra)少将, サリーム・カブール(Salīm Kabūl)ハサカ県知事らと会見を重ねた[Akhbār al-Sharq 2004b; Ḥamīdi 2004]

(注17) Nimr[1995]によると, サラーフ・バドルッデ

ーン派とイスマト・サイダー派のイデオロギー・思想には、後者がマルクス・レーニン主義を若干重んじる以外に違いは見られなかった。

(注18) ムスタファー・トゥラース国防大臣と会見したのは、アブドゥルハミード・ダルウィーシュ, イスマーイル・ウマル, ナスルッディーン・イブラーヒーム, ムハンマド・ムサーの4名[Husaynī 2004]

(注19) Efrin.net[2004c]によると, シリア・クルド人民連合党はPKKから派生した。

(注20) 2002年12月, 刑期を終え釈放された。

(注21) Mannā[2004, 7]によると, シリア・クルド民主党は発足にあたって当局に公認申請を行わず, “秘密結社”として活動した。

(注22) Mannā[2004, 7]によると, シリア・クルド民主党员への大規模な逮捕は1959年に行なわれた。

(注23) Kinnane[1964, 44]によると, 軍や警察が投票箱をすり替え, 政府にとって好ましい投票結果を捏造した。

(注24) McDowall[2000, 478]によると, この組織はKDPの実質的な支部であった。

(注25) また, ダマスカス党機構(Munazzama al-Hizb fī Dimashq)が『アル=ハヤート ジーン』(al-Ḥayāt : Jīn)を, アレッポ県党機構(Munazzama al-Hizb fī Muḥāfaẓa Ḥalab)が『アル=フッリーヤアーザーディー』(al-Ḥurriya : Azādī)をそれぞれ発行している。

(注26) シリア・クルド民主統一党(イエキーティ)は, アレッポ市選挙区でラシード・シャアバーン(Rashīd Sha‘bān, 弁護士), イブラーヒーム・イブラーヒーム(Ibrāhīm Ibrāhīm, 作家・ジャーナリスト)の2名を, アレッポ県諸地域選挙区でアフマド・アフマド・カーシム(Aḥmad Aḥmad al-Qāsim), ヌーリー・ブリーム(Nūrī Burīmū), ムスリム・シャイフ・ハサンの3名を, そしてラッカ県選挙区でウマル・アティユ(‘Umar ‘Atīy)をシリア・クルド民主同盟の候補者として立候補させた。このうちイブラーヒーム・イブラーヒーム(シリア・クルド民主同盟総会議メンバー)を除く候補者はシリア・クルド民主統一党(イエキーティ)の党员だった[Amude.net 2003a; 2003b]

(注27) 2002年12月, ムスリム・シャイフ・ハサンが刑期を終え, 釈放された。

(注28) ジェラーデト・ベドウルハーンはまた、ダマスカス市で妻レウシェン・ハーヌム・ベドウルハーン (Rewşen Xanim Bedirxan) とともに、クルド語雑誌『ハーワール』(*Hawar*), 『ローナーヒー』(*Ronahî*) を創刊するなど活発な活動を展開し、同市のクルド人医師、弁護士、記者などをクルド民族主義に感化していった。

【文献リスト】

日本語文献

青山弘之 2003. 「シリアにおける政党・政治組織 パッサール・アル＝アサド政権発足以降を中心に」 酒井啓子・青山弘之編「中東諸国における政権権力基盤と市民社会 研究会中間報告」アジア経済研究所 63-116.

2005. 「権威主義・独裁維持のための「多元主義」パッサール・アサド政権下のシリア」酒井啓子・青山弘之編『中東・中央アジア諸国における権力構造 したたかな国家…翻弄される社会』(アジア経済研究所叢書1) 岩波書店.
未刊行. 「シリアにおけるクルド問題 差別・抑圧の“制度化”」『アジア経済』

外国語文献

Akhbār al-Sharq(<http://www.thisissyria.net/>)2002a. “Hizb Sūrī Kurdī Qalaq min Istimrār l’-tiqāl al-Nāshitīn al-Akrād fi Sūriya,” June 8.
2002b. “Indimāj Hizbayn Kurdīyayn Mu’arīdayn bi-Huḍūr Mumaththilīn ‘an “al-Ba’tḥ,”” June 17.
2002c. “al-Ḥukm ‘alā Mu’taqal Kurdī Sūrī bi-al-Sijn Thalātha Ashhur,” August 14.
2002d. “Hizb Kurdī Yunazzim Nadwa fi Dimashq ‘an Waḍ’ al-Akrād fi Sūriya,” October 2.
2002e. “Hizb Kurdī : l’āda al-Jinsīya li-l-Mujarradin fi Itār al-Dīmuqrāṭīya wa al-Mušālahā al-Waṭaniya,” November 8.
2003. “Hizbān Kurdīyān Yad’uwān ilā Iqāma “al-Taḥāluf min ajl Sūriya Dīmuqrāṭīya,”” June 16.
2004a. ““Amn al-Dawla al-‘Ulyā” Tufrij ‘an al-Qiyādiyayn al-Kurdiyayn Ḥasan Ṣāliḥ wa Marwān ‘Uthmān,” February 26.

2004b. “14 Qatilan fi Muwājahāt Damawīya bi-al-Qāmishli wa Iqtihām al-Sifāra al-Sūriya fi Burūksil,” March 14.

Aljazeera.net(<http://www.aljazeera.net/>)2004. “al-Ra’īs al-Sūrī wa al-Awdā’ al-‘Arabīya al-Rāhina,” May 1.

Amude.net(<http://www.amude.net/>) 2003a. Bada’ al-Murashshahūn al-Akrād bi-al-Di’āya al-Intikhābiya fi Madīnatay Ḥalab wa al-Raqqa,” February 19.

2003b. “Murashshahī al-Taḥāluf al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī fi Sūriya : al-Tadakhkhul al-Fāḍiḥ fi Sayr al-‘Amaliya al-Intikhābiya Huwa Ta’kid ‘alā Istimrāriya al-Ta’āmūl al-Shūfinī ma’a Abnā’ al-Sha’b al-Kurdī fi Sūriya,” March 4.

As’id, Shākir 2002. *al-Barlamān al-Sūrī fi Taṭawwur-hu al-Tārīkhī 1919-2001*. Damascus : Dār al-Madā li-l-Thaqāfa wa al-Nashr.

Aṭfāl al-Kurd fi Sūriya 2003. “Mudhakkira Aṭfāl al-Kurd fi Sūriya ilā Munazzama al-Umam al-Muttaḥida li-l-Ṭufūla fi Sūriya,” June 25.

Badr al-Dīn, Ṣalāḥ 2001. “Mashrū’ Barnāmaj al-Ḥaraka al-Waṭaniya al-Kurdiya fi Sūriya : Maṭrūḥ li-l-Munāqasha.” *Hevgirtin.org*(<http://www.hevgirtin.org/hevgirtin.html>) January 1.

2003. *al-Ḥaraka al-Qawmiya al-Kurdiya fi Sūriya: Ru’ya Naqdiya min al-Dākhil*. Beirut : Rābiṭa Kāwā li-l-Thaqāfa al-Kurdiya.

Bārti Dīmuqrāṭi Kurdistāni Sūriya 2003. “Bārti Dīmuqrāṭi Kurdistāni Sūriya Yuqim Nadwa fi 23/8/2003 bi-Madīna Būn al-Almāniya ḥawla “al-Taḥāluf min ajl Sūriya Dīmuqrāṭīya,” August 23.

Barwārī, Ṣalāḥ n.d. “Limādḥā al-Iṣrār ‘alā Idhkā’ Nār al-Khilāfāt al-Kurdiya : Raddan ‘alā Ṣalāḥ Badr al-Dīn.” *Iraqi Writer.com*(<http://www.iraqiwriter.com/>)

al-Dīmuqrāṭī(<http://dimoqrati.org/>)2003. “Muḥākama Aḥmad Muṣṭafā Qāsīm Intihāk Ṣāriḥ li-l-Huqūq al-Muwāṭinīn, wa Ittihāmāt Bāṭila,” No.453 (December): 4.

Darrāj, Fayṣal and Jamāl Bārūt ed. 1999. *al-Aḥzāb wa al-Ḥarakāt wa al-Jamā’āt al-Islāmīya*. 2 Vols. Damascus : al-Markaz al-‘Arabī li-l-Dirāsāt al-Istrāṭijīya.

n.d. *al-Aḥzāb wa al-Ḥarakāt al-Qawmiya al-*

- '*Arabīya*. 2 Vols. Damascus : al-Markaz al-'Arabī li-l-Dirāsāt al-Istrātijīya.
- Efrin.net(<http://www.efrin.net/>)2003. "Tashkil Hizb Siyāsī Kurdī Jadīd fi Sūriya," October 20.
- 2004a. "Muḥāsara al-Ṭalaba al-Akrād fi Jāmi'a Ḥalab," March 14.
- 2004b. "I'tiqāl Aḥad A'ḍā' al-Maktab al-Siyāsī li-l-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaaddumī wa Wafd min Rijāl al-Dīn al-Masīhī Yaltaqī al-Qiyādāt al-Kurdiya," March 15.
- 2004c. "al-Alf al-Akrād Yuḥayyūn bi-Hudū' 'Id al-Nūrūz fi Shamāl Sūriyā fi Zill al-A'lām al-Kurdiya," March 22.
- 2004d. "Fī Khatwa Jadīda li-Qam' al-Nashāt al-Kurdi : al-Sulṭāt al-Sūriya Taṭlub min al-Aḥzāb al-Kurdiya Tark al-'Amal al-Siyāsī wa al-Taḥarruk ilā Jam'iyāt Thaqaḥīya," June 2.
- 2004e. "al-Sulṭāt al-Sūriya Tastamirr fi Istid'ā' Mas'ūli al-Aḥzāb al-Kurdiya li-Iblāgh-hā Qarār Man' Nashāt Aḥzāb-hā," June 3.
- 2004f. "Ajhiza al-Amn al-Sūriya Tuwāsil Ḥamla Mulāḥaqa wa I'tiqāl Anṣār Hizb al-Ittiḥād al-Dīmuqrāṭī," August 9.
- Ḥamidī, Ibrāhīm 2004. "Dimashq : Mas'ūlūn Yaltaqūn Shakhṣīyan Kurdiya wa Taḥdhīr Murtakabī al-Shaghḥ min Musā'ala Qānūniya." *al-Ḥayāt*, March 15.
- Ḥamw, 'Abd al-Bāsīt 2003. "Wifqa Dhikrā fi al-'Ahd wa al-Wafā' 'abra Ḥanīn al-Ghurba ilā Ūlā'ika al-Sāmidīn fi Zanzānāt Dimashq." Amude.net, November 25.
- al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(al-Bārti)2004. "Bayān : Ilān Tawḥīd "al-Bārti"," March 7.
- al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(al-Bārti) Munazzama Ūrubā 2003. "Bayān fi al-Dhikrā al-Sābi'a li-Istishhād al-Rafīq Amīn 'Āmm Hizb-nā al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(al-Bārti)Kamal Aḥmad Darwish," November 3.
- al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi al-Sūri 2003. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm," December 14.
- al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaaddumī al-Kurdi fi Sūriya 2003. "Jalsa Ḥiwār Waṭanī ḥawla al-Mas'ala al-Kurdiya fi Sūriya," August 10.
- al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Taqaaddumī al-Kurdi fi Sūriya, al-Hizb al-Dīmuqrāṭī al-Waṭanī al-Kurdi fi Sūriya, Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya, Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(Yakīti) Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya, al-Hizb al-Yasāri al-Kurdi fi Sūriya, Lijān al-Difā' 'an Ḥuqūq al-Insān fi Sūriya, Jam'iya Ḥuqūq al-Insān fi Sūriya, Lijān Ihyā' al-Mujtama' al-Madanī and Lajna al-Difā' 'an al-Mujarradīn min al-Jinsīya 2003. "Bayān," October 5.
- Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya al-Lajna al-Markaziya 2003a. "Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi Yu'lin Muqāta'a al-Intikhābāt fi Jami' al-Manātiq : Bayān ḥawla "al-Intikhābāt" al-Muqbila fi al-Bilād," February 22.
- 2003b. "Bayān," June 2.
- 2003c. "Balāgh Ṣādīr 'an al-Ijtimā' al-I'tiqādi li-l-Lajna al-Markaziya li-Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya," August.
- Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya al-Maktab al-Siyāsī 2002. "Taṣriḥ min al-Maktab al-Siyāsī li-Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya," December 20.
- Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(Yakīti) al-Lajna al-Siyāsīya 2002. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm," August.
2004. "I'tiqāl Aḥad A'ḍā' al-Hay'a al-Qiyādiya li-Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī : Taṣriḥ," April 11.
- Hizb al-Waḥda al-Dīmuqrāṭī al-Kurdi fi Sūriya(Yakīti) Hizb al-Ittiḥād al-Sha'bi al-Kurdi fi Sūriya, Hizb al-Yasār al-Kurdi fi Sūriya and Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya 2003. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm," June 29.
- Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya 2003a. "Mawqif Tawḍīḥī," February 22.
- 2003b. "Bayān," February 23.
- Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya al-Lajna al-Markaziya 2003. "Bayān ilā al-Ra'y al-'Āmm ḥawla Intikhābāt al-Idāra al-Maḥalliya : Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya Yu'lin 'an Muqāta'a li-Mujmal Nashātāt wa Fa'alīyāt Intikhābāt al-Idāra al-Maḥalliya," June 1.
- Hizb Yakīti al-Kurdi fi Sūriya al-Lajna al-Siyāsīya 2002a. "Bayān ḥawla Mu'ānāt al-Insān al-Kurdi fi Sūriya bi-Munāsaba al-Yawm al-'Ālamī li-Ḥuqūq

- al-Insân," December 10.
- 2002b. "Bayân ilâ al-Ra'î al-'Âmm," December 17.
2004. "I'tiqâl Aḥad Qiyādîyî Ḥizb Yakîti : Bayân min Ḥizb Yakîti ḥawla I'tiqâl al-Qiyādî al-Bāriz Maḥmūd 'Amw," April 9.
- Ḥizb Yakîti al-Kurdî fi Sûriyâ, Ḥizb al-Waḥda al-Dîmuqrâti al-Kurdî fi Sûriyâ(Yakîti) Ḥizb al-Ittiḥād al-Sha'bî al-Kurdî fi Sûriyâ, Ḥizb al-Ittiḥād al-Dîmuqrâti and al-Ḥizb al-Yasārî al-Kurdî fi Sûriyâ 2004. "Taṣrîḥ," August 29.
- Ḥizb al-Yasārî al-Kurdî fi Sûriyâ, Ḥizb Yakîti al-Kurdî fi Sûriyâ, Ḥizb al-Ittiḥād al-Sha'bî al-Kurdî fi Sûriyâ and Ḥizb al-Waḥda al-Dîmuqrâti al-Kurdî fi Sûriyâ 2003. "Taṣrîḥ al-Aḥzâb al-Kurdîya bi-Munāsaba Muẓāhara al-Atfāl al-Kurd fi Sûriyâ," June 25.
- Ḥusaynî, 'Abd al-Bāqî 2004. "Ijtima' Wafd Kurdî ma'a Wazîr al-Difâ' al-Sûri." Efrin.net, April 25.
- Ibrāhîm, Ibrāhîm n.d. "Akrād Sûriyâ : Wujûd Fi'li wa Ḥaqîqa Tārîkhiya." Efrin.net.
2003. "Asrâr al-I'tišâm al-Akhîra fi Dîmashq wa Insiḥâb al-Dîmuqrâti al-Kurdî al-Sûri min al-Taḥâluf al-Dîmuqrâti al-Kurdî fi Sûriyâ." Efrin.net, December 18.
- Kinnane, Derk 1964. *The Kurds and Kurdistan*. London and New York : Oxford University Press.
- Kurdish Yekiti Party in Syria 1999. "The Political Program Submitted to the Third Convention of the Yekiti Party in Syria," November.
- Lijân al-Difâ' 'an Ḥuqûq al-Insân fi Sûriyâ, al-Ḥizb al-Dîmuqrâti al-Taqaddumî al-Kurdî fi Sûriyâ, Jam'îya Ḥuqûq al-Insân fi Sûriyâ, al-Ḥizb al-Dîmuqrâti al-Waṭanî al-Kurdî fi Sûriyâ, Lijân Ihyâ' al-Mujtama' al-Madani, Ḥizb al-Ittiḥād al-Sha'bî al-Kurdî fi Sûriyâ, Lajna al-Difâ' 'an al-Mujarradin min al-Jinsiya, Ḥizb al-Waḥda al-Dîmuqrâti al-Kurdî fi Sûriyâ(Yakîti) and Ḥizb Yakîti al-Kurdî fi Sûriyâ 2003. "Taṣrîḥ Şuhfû," October 5.
- al-Maḥmūd, Muḥammad 2003. "Limadhâ Ṭaraḥ al-Mas'ala al-Kurdîya fi Sûriyâ al-'An." *al-Quds al-'Arabî*, January 7.
- Mannâ', Haytham 2004. '*Adimû al-Jinsiya fi Sûriyâ(min Ghayr al-Lâji'in al-Filasṭiniyin)* 3rd edition, Malakoff : al-Lajna al-'Arabîya li-Ḥuqûq al-Insân.
- Martîni, Bahjat 2003. "al-Ḥiwâr Bidāya al-Iṣlâḥ fi Sûriya." <http://www.karawan.de/>, July 23.
- McDowall, David 1992. *The Kurd : A Nation Denied*. London : Minority Rights Group.
2000. *A Modern History of the Kurds*. 2nd revised and updated edition, London and New York : I.B. Tauris.
- al-Mu'taṣimûn al-Mujarradûn min al-Jinsiya al-Sûriya 2003. "Naṣṣ al-Mudhakkira allati Qaddam-hâ al-Mu'taṣimûn," October 5.
- "Mudhakkira ilâ al-Sayyid Ra'îs Majlis al-Wuzarâ " 2003. December 10.
- Nâmî, Zârâ 2003. "Fi al-Bâstîl al-Sûri." Amude.net, June 26.
- Nazdar, Mustafa(tr. by Michael Pallis)1980. "The Kurds in Syria." In *People Without a Country : The Kurds and Kurdistan*. ed. Gerard Chaliand, 211-219. London : Zed Press.
- Nimr, Faraj 1995. "al-Tanzîmât al-Siyâsiya al-Kurdîya fi Sûriya min 'Âm 1956 ḥattâ 'Âm 1986." *Şawt Kurdistan*, Nos. 22-23(<http://www.tirbespi.com/arab/dirassa/arabepartip2.htm>)
- Qamislo.com(<http://www.serhildanaqamislo.com/>)2004. "al-Ba'th al-Sûri" Yamna' Nashât Jamî' al-Aḥzâb al-Kurdîya," June 3.
- Ramaḍân, Ribhân n.d. "Sha'b Mansî wa Dustûr Ghâ'ib "Qirâ'a fi al-Mas'ala al-Kurdîya fi Sûriya." *Muqarabât*, No. 1.
- Rashîd, Aḥmad 2002. "al-Tāwila al-Mustadîra wa al-Arjul al-Kasiḥa li-Faṣā'il fi al-Ḥaraka al-Kurdîya al-Sûriya." *Akhbār al-Sharq*, December 22.
- Şawt al-Akrād : Dengê Kurd* 2002. "Ra'îs al-Jumhûriya Yazûr Muḥāfaẓa al-Ḥasaka," No. 334(August): 1-2.
- Şêxo, Ebdil Mecîd 2003. "Gelê kurd li Kurdistan Sûriyê (Dîrok, Rêxistin, Siyaset): Xelesa dudoyê. Heyama Duhem ji Tevera Azadîxwaz a Kurd li Sûriyê." *Pênûs*, No. 15(Summer)
- Şûro, Hevpeyvîn 2003. "Hevpeyvîn bi Mamoste "Ismail Emo" re Serokê Partiya Yekîti a Demuqrat a Kurd li Sûriyê(Yekîti)." *Tirêj*(<http://www.tirej.net/>), February 22.
- "Taṣrîḥ Şuhufî Şadîr 'an al-Aḥzâb wa al-Munazzamât al-Dîmuqrâtiya al-Mushârîka fi I'tišâm Dimashq bi-

Munāsaba al-Yawm al-'Ālamī li-Ḥuqūq al-Insān”
2003. December 12.
al-Wifāq al-Dīmuqrāṭī al-Kurdī al-Sūrī Munassiqīya
2004. “Bayān ilā al-Ra'y al-'Ām al-Kurdistānī,”
December 4.
Yekīti 2000. “Jarīda Tajammu' al-Zarkī Tuwajjih al-
Ittihāmāt li-l-Aḥzāb al-Kurdīya fī Sūriyā,” No. 68

(December)
Yūsuf, 'Abd al-Bāqī 2002. “Taṣrīḥ Şuḥufī : Tazāhura
Silmīya li-l-Kurd amāma Mabnā al-Barlamān al-Sūrī
fī Dimashq bi-Munāsaba Yawm al-I'lān al-'Ālamī
li-Ḥuqūq al-Insān,” December 10.
al-Zamān 2002. “Itiqāl 'Aḍw Lajna Markaziya fī al-Ḥizb
al-Taqaddumī al-Dīmuqrāṭī al-Sūrī,” November 3.

(あおやま ひろゆき / 地域研究センター)